

10/19  
福井

# 国保赤字 税金穴埋め

## 厚労省容認 移管控え転換

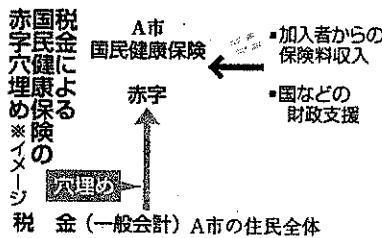
自営業者が加入する国民健康保険（国保）

☆NEWSの書類

の運営を来年

4月、市区町村から都道府県に移管するのを前に、厚生労働省が従来の方針を事実上後退させ、市区町村が一般会計の税金で国保の赤字を穴埋める措置を当面は容認する姿勢に転じたことが18日、分かった。自治体向けの説明会などで、穴埋めの継続を選択肢として示した。

【5面に関連記事】



一般会計による國保の赤字  
穴埋めは、住民から広く集めた  
税金を國保加入者だけのため  
に使う形だ。厚労省は今まで  
してないとして「計画的に解  
消すべきだ」としてまた、保  
険料の変化を試算すると激  
しくなるとしているが、保  
険料で賄おうとするた  
め、一般会計から「法定外繰  
り金」による  
國保赤字の  
穴埋め※イメージ

り入れ」と呼ばれる手法で約6割の市区町村が赤字分を補填している。保険料は現在、市区町村が決めているか、来年4月からは都道府県が管内の市区町村の医療費や所得水準などを基にそれぞれの保険料の目安を提示。市区町村はそれを参考に保険料を決める方式に変わら、一部で大幅な上昇が予想されている。国は保険料の伸びを抑えるため来年度に計約1700億円を投じて自治体を支援するが、激変緩和のため、当面は

法定外繰り入れを認める」とにして。厚労省は「繰り入れを計画的に減らす姿勢に変わりはない。ただ保険料の急激な上昇は望ましくないので自治体に緩和策を講じるのに要請している」としている。一方、健康づくり活動などがに出る可能性もある。

高齢や低所得の加入者が多い国保は構造的な赤字が続いているおり、2015年度の赤字は全国で総額約2800億円。保険料で賄おうとすると加入者の負担が重くなるため、一般会計から「法定外繰り